

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	4372300857		
法人名	株式会社 スエトミ		
事業所名	グループホーム ドリームまつばせ 東棟		
所在地	宇城市松橋町松橋1619-1		
自己評価作成日	平成29年3月14日	評価結果市町村受理日	平成29年5月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人ワークショップ「いふ」		
所在地	熊本県熊本市水前寺6丁目41-5		
訪問調査日	平成29年3月29日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

利用者様の出来る力を大切に、本人様の思いが叶うように、気持ちを少しでも汲み取れるように支援し、笑顔や安心感の見えるように努めている、スタッフ、利用者様、家族と交流に力を入れ信頼関係につなげている。スタッフの安定した状態で利用者様も安心して過ごせるように支援している。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

近くに小学校やスーパー・コンビニ等がある街中に位置し、各利用者はホームを自分の居場所として、職員に支えられながら自分らしい暮らしを営んでいる。利用者の高齢化とレベル低下は否めないが、買い物同行と近隣の散歩は日常的に行われている。年3回の日帰り旅行は恒例化しており、外出支援に力を入れている事が確認できた。また、両棟の管理者が理解しあっており、職員間の信頼関係が構築され、利用者の暮らしの安心・安全に繋がっているものと思われる。なお、同敷地内に認可外保育園を建設中であり、今後若い人達の出入りが見込まれ、益々活性化が期待できるホームである。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	スタッフ一同理念の確認、あり方をふまえ安心される生活ができるようつなげている。	「今を大切に、私が私らしくある為に」という、利用者の立場に立った基本に沿って、職員間で話し合っ作成された5つの理念がある。職員同志、利用者へのケアや関わりを見て、理念に沿ったケアが提供されているか、ミーティングで振り返りをして、馴れ合いやマンネリにならないよう、努力している。	理念は玄関に掲示されているが、リビングの壁やトイレのドアの前等、目に留まる所に貼っておくと、自然に浸透し易いのではないかと思います。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	年間を通しての行事などで、地域の交流、家族様との交流を行っている。散歩時の地域の方との交流もある。クリスマス会等地域の方に参加して貰っている。	施設行事の夏祭り・クリスマス会には、地域住民の参加を得ており、広く理解が深められている。毎日の散歩では、近隣住民との気軽な挨拶でコミュニケーションが図られている。又、近くの小学校には文化祭や運動会見学に行き、ホームから利用者が作成した雑巾(100枚)を届ける等、子供たちとの交流が、毎年続けられている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて認知症の人のその人に対する支援のあり方など踏まえ話しを行い理解と支援の方法を伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の会議時活動報告を行っている。1つ議題を決め、意見交換などすることで得ることがある。地域の情報交換。	運営推進会議委員は、区長・民生委員・老人会長・行政・包括と家族代表で構成され、2か月に一度開催されている。ホームから、活動報告と入居者状況についての説明後、入居者とのコミュニケーションの取り方とか、認知症高齢家族への理解について等、活発な質疑応答が行われている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	管理者は毎月の報告実施、又担当者の方から入居者さまの現状について意見や質問を求められた時は、正確な内容を提供し協力関係を築いてる。	ホーム長は、毎月利用者の入居状況と、半年に一度生活保護利用者のケアプランを、市担当課に出向いて提出。市は、運営推進会議にも出席しており、運営状況にも理解が得られ、互いの信頼関係が構築されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	スタッフにて連携図り、利用者様の状況に応じ対応と玄関の施錠など無い支援が出来るようにケアに取り組んでいる。又時間帯で施錠が必要な時は記録を残す様に心掛けている。	ホーム内外の研修で、身体拘束の弊害について学び、日々実践の場では、ミーティングで、鍵を掛ける必要があるか、行動を抑制していないか、強い口調での声掛けになっていないか等、職員間で話し合い、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会への参加やホームミーティング勉強会で理解を深め払うことで防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者含め他のスタッフも研修などに参加し学び、活用できるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約のときはホームの内、外を見て頂いて、契約時書類説明して不安のない様、質問を受け納得を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議にて家族様からの意見を聞く等の時間を設けている。又外部評価のアンケート等で反映出来るようにしている。	家族の面会は多く、その都度利用者の状況を伝え、要望がある際は話し合い、受け入れる柔軟な対応が見られた。又、ケアプランを持ち帰り、熟読してもらった上で、納得が得られるまで話し合うケースもある等、家族の思いをくみ取った支援に繋げ、信頼関係を作り上げている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフの時間帯も違う入居者の方との対応、役割の仕事しながら気づく点も多く習うことも多々ある。その都度のまとめを意見交換する大事な時間がミーティングだと思う。小さなことでも話し合えるようにしたい。	毎日、引き継ぎノートに気付きや申し送り事項を記載し、利用者の情報を共有している。出勤時には、個人ファイルで利用者の状態を確認し、業務に入る事を心掛けている。両棟の管理者が、ホーム長を中心に理解し合い、東棟の利用者が西棟に出かける事もある等、2ユニット間の交流もスムーズで、コミュニケーションが図られている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務状況や資格所得の推進等で向上心を持ってるように配慮した運営に心掛けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修には交替で参加して頂く。又自分から参加される方も多くミーティングで発表して頂いている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホームの勉強会等で情報交換し交流を持っている。さらに同業者との親睦をぐかめるため、ミニバレー大会やボーリング大会のレクエーションに参加し交流を図った。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時ケアマネや家族の方から情報を得たり本人より不安なこと、希望を聞き、新しい環境の中で安心して生活できるよう寄り添いながら支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居に関しては、家族がどのような事で困られていたか、サービスに対する不安に耳を傾けホームで出来る事、家族に協力して貰うことを明確にしておく。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホーム以外のサービスとして訪問看護を週に一回健康管理として対応している。希望される利用者に週に1回、訪問歯科も提供されている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日頃の家事作業やレクリエーションを通して、得意分野やで力を発揮出来るように支援している。日常生活と同様に行っている。一部の入居者の方は役割意識を持ち意欲的に家事作業をされている。現在は草取りや調理も積極的に手伝って頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の方々とも出来るだけコミュニケーションが取れるように努め、日頃の様子を詳しく話すように心掛けている。来訪時は体調や生活状況を報告し、毎月の新聞で皆様の様子を写真入りで報告している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者様のご家族やなじみの方たちが来訪された際は、ゆっくり話せる場を設けている。	毎週、面会に訪れる家族もあり、来られない家族は電話や宅配による送りものがある等、家族との繋がりを大切にしている。正月・法事・墓参り等の一時帰宅の支援にも力を入れており、買い物に出かけたスーパーで友人に出会ったり、昔の知人の訪問がある等、その都度、途切れない関係継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う方同士で会話や活動している時は見守りで対応し、入居者間でトラブルになりそうな時はスタッフが間に入り、関係が円滑に行えるように心掛けている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入居者様を最後までお世話できるように心掛けご家族の相談やご希望に沿えるように努めている。退所後などご家族様との会話など見られる。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その人に合った支援とその人に必要な対応と自分が求めたい支援を相手にもしてあげたい。それが家族も分かって安心しますとの声が聞かれる。	意思表示ができていくなっている利用者については職員が思いやり、自分がされて嫌だと思われる事はしないという考え方で接している。毎日の買い物に同行する利用者もあり、その日のメニューの食材を選んでもらう事で、利用者の満足が得られている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	各利用者の日常の状態を常に観察し、以前の暮らしぶりや意向を考慮し、モニタリングを行い、適切なサービスが提供できるように調整を繰り返しながら努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様一人ひとりの出来ること、困っていることの把握に努め、日々の心身状態、有する力などを見極めと共に、機能低下に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画にあたっては、利用者の日々の暮らし方やご家族の意見や思い、必要な関係者と話し合いを行い、作成にあっている。介護計画の説明時はご家族の思いを必ず聞くように努めている。	介護計画は、「評価考察記録」を担当職員に提出してもらい、毎日記入している個別記録と合わせて作成している。本人・家族の意向を重視し、ホームでどう暮らしたいかを見極めた上で、レベル低下にならないよう、日常の細かな行動まで、計画に挙げるよう努力している。半年に一度モニタリングを行い、入院や更新時は随時見直して、現状に即した計画としている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	各利用者の日々の状態を各ファイルに記載し、共に職員間での連携を図り、早期改善、対応が出来るようにしている、又モニタリング、介護計画に反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	四季折々に行事を行い、各位様が楽しんで頂けるように支援している。正月初詣、梅の花見、花見、夏祭り、敬老会行事、運動会見学、クリスマス会等柔軟な支援のサービスに努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	定期的に運営推進会議や地元の小学生との交流を開いている。小学校のお祭り見物や近所の方が訪ねて来られたり地域の方々とふれあひも大切にしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	急変時や往診時等、ご家族に連絡し、納得された上で受診して頂いている。24時間対応の訪問看護も行っていたことがあり、主治医、看護師、介護との連携にて対応している。	入居時に、これまでのかかりつけ医継続について話し合いをもっているが、ほとんどの利用者が、月一回の往診や急変時に対応可能な協力医に変更している。全利用者が、月二回の訪問看護も受け入れており、健康管理にも配慮がみられた。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	特変があった場合は、ホームの看護師を連携を図ると共に月2回の訪問看護で利用者様の状態報告をし、助言を受け指導して頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご本人が場所が変わった事で不安にならない様に、社長、ホーム長、職員が交代でお見舞いに行き安心して過ごせるように支援を行っている。ご家族と病院側と連携し早期退院できるように努めている。退院時など利用者様にあった支援をスタッフで話し合うことも行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルを希望されるご家族に対しては希望に添えるように、最後まで看取れるよう、スタッフ全員で話し合い支援している。ご家族も大変喜ばれていた。	「看取り」を行う方針で、家族と同意書を取り交わしている。かかりつけ医でもある協力医は24時間対応可能であり、職員・家族の安心が得られている。若い職員が看取りに直面した場合は、職員みんなでバックアップし、本人の成長に繋がった事例もある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時、初期対応は職員の格差はあるものの、その場にいる職員やホーム長と連絡を取り合い緊急時に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に二度は避難訓練をし、定期的な点検をして頂いている。消防署や地域住民との連携を図り協力体制を築いている。	年2回、防災訓練が行われており、1回は消防署立ち合いの下、アドバイスを受けている。今回、4月に近くの小学校で開催される「地区防災訓練」に職員が参加予定。指定の防災業者から、消火器・スプリンクラー点検も受けており、職員の防災意識を高めている。	地域住民との協力体制の構築は、今後の課題であると思われる。運営推進会議でも議題として取り上げ、話し合われる事が望まれる。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の言葉や行動に否定したことを言わないように心掛けスタッフ間でも安心感を持って頂く言葉掛けに努めている。	「高齢者の尊厳」という視点から、馴れ合いにならないような支援を心掛けている。月一回のミーティングで、接遇について具体例を挙げて検討し、気付きを職員間で話し合い、プライバシーが損なわれない対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	なるべくご本人が自己決定できる環境づくりと、自己決定不可能な方からは家族からの希望や自分が思ってる言葉が聞かれるよう気持ちの汲み取りが出来るよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人らしく過ごして頂けるように日々の生活の中でコミュニケーション交えながら支援行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	モーニングケア時や入浴後など洋服や髪の毛のセットなど気にされる時など談話し支援行うことでとても笑顔見られ一日を楽しく感じておられるように感じられる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者とスタッフが一緒に食事を摂っている。楽しい食事ができる様に会話をたのしみながら支援行う。	両棟でメニューが異なり、食材の買い出しは、毎日利用者と共に近くのスーパーに行っている。賞味期限を確認しながら食材選びをする利用者もあり、利用者主体の支援が出来ている。利用者の嗜好も反映された料理が提供されており、おかわり自由。御飯が残った人にさりげなく「ふりかけ」が出される等、家庭的な食事風景が見られた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	季節に応じ水分量が不足していると思うこともあり、スタッフでの連携に努めている。食事に関しては利用者が食べやすい形態、好み、量に配慮して殆どの方が完食されている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの必要性を理解し、声かけと介助の方へは十分に支援するように努めている。訪問歯科とも連携を図り口腔内の清潔確保には努力している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンのリズムを把握しトイレの誘導を行っている。落ち着かれない時なども誘導行う。オムツやパットの経費削減の努力をしている。	紙おむつ・布パンツにパット等、その人の自立度に応じた排泄支援が行われている。昼間は排泄表の活用で、定期的な誘導や気配を察知して誘導する事で失敗を少なくし、おむつの経費削減に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜の摂取や特に根菜類に努めている。又飲み物を体調に合わせて変えている。また便秘が3日以上の場合様子を観察し下剤を服用する場合もある。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者の気持ちを汲み取り、笑顔にて声掛けを行い、自ら入りたいと思うような支援を行っている。ご自分で出されることは、極力手を出さずに衣類着脱、洗身、洗髪して頂く。	ゆっくり浴槽に浸かりたい・シャワー浴だけでいい・入浴したくない等、それぞれの拘りを受け入れて柔軟に対応している。入浴したくない人には「足浴」で心地よさを感じてもらい、そのタイミングで入浴につなげる場合もあり、一日置きに入浴ができるよう声かけにも工夫が見られた。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、畳の上で過ごして頂いたり、傾眠されている方には、声かけて居室で少し横になって頂く。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	副作用については薬説明書に目を通すようにスタッフでの連携図り、薬の変更があった時は引継ぎ簿などに記入し対応に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様一人一人の喜びのある日々が過ごせるように、その人に合った支援を行っている。一日に笑顔が沢山見られるように心掛けている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	最近では重度化もあり、なかなか戸外へ出かける機会が減ってきている。買い物は毎日同行して頂いている。	初詣・花見・夏祭り等の間に、年3回の日帰り旅行が毎年実施されており、この様子は沢山の笑顔の写真に収められ、家族からも好評である。又、個別対応で毎日の散歩と買い物があり、利用者優先の外出支援に力を入れ、利用者の暮らしを活力あるものにしていく。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の力に応じ、ご家族が小遣いとして渡しておられ、日帰り旅行やドライブ、買い物同行時に本人様が欲しいもの、必要なものを自由に購入しておられる。持っておられるお小遣いの残金を考えながら節約し使っておられる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族への電話要求があれば取り次ぎして会話して頂く、手紙も書かれたら必要な所は支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フローア装飾には、季節時に応じて写真を提示したり、毎月の新聞便りを提示したりして四季を味わって頂いている。照明は適度な明るさを保ち快適に過ごして頂く。転倒を防ぐため、不要なものは行いように心掛けている。季節の花も玄関に飾っている。	両棟とも、木の梁のある高い天井のリビングには、ランプ風の照明を使い、穏やかな光が取り入れられている。調理の下ごしらえや食器拭きをしている人・二人仲よくテレビを観ている人・一人でゆっくりくつろいでいる人等、日中のリビングには落ち着いた空気の流れが感じられた。玄関には花が活けられ、小物等の装飾品も配置され、家庭的な雰囲気となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人ひとりの意思を尊重し、見守りにて対応行っている。一人で過ごされる事を希望される利用者様に関しては、孤立されないように、スタッフとの会話等で安心できるように努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時など日頃使っておられた物や家族様と本人様の居心地の良い工夫をされている時など互いに会話し少しでも気持ちに沿えるよう支援し安心して頂いている。	室内には、持ち込み品の寝具・整理タンス・テレビ・仏壇等が置かれ、壁にはカレンダーや家族写真等があり、家族の思いが込められた温かみのある居室作りが出来ている。窓からは田園風景が眺められ、開放感が感じられた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	お風呂やトイレは認識しやすいように明示してある。手すりが必要な所には設置してあり、安全に生活できるように配慮してある。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4372300857		
法人名	株式会社 スエトミ		
事業所名	グループホーム ドリームまつばせ 西棟		
所在地	宇城市松橋町松橋1619-1		
自己評価作成日	平成29年3月14日	評価結果市町村受理日	平成29年5月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ワークショップ「いふ」		
所在地	熊本県熊本市水前寺6丁目41-5		
訪問調査日	平成29年3月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開設14年を迎えスタッフもキャリアを積んでおり、又ホーム内の移動等で若手の職員が増えたことでより明るく、笑顔のある、楽しんで穏やかな生活の支援が出来ていると感じている。季節ごとの行事が充実できるよう、またご利用者様一人ひとりが満足できるように細かいところまで目配りできるように努めている。出来る力や今を大切にし本人様の希望がかなうようにスタッフで支援している。高齢の利用者様が増えているがスタッフ協力しその人らしい生活の確保に努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	五つの理念を提示し、職員全員が認識し共有実践につなげている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	小学校からの体験訪問受け入れ、雑巾贈呈、散歩時の挨拶や、ゆりのき祭に参加し交流を図っている。今後 地区の防災訓練等に参加予定です。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて入居者の状況や出来事、支援内容について活動報告することで展開し進めています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2カ月に1回行い、毎回活動報告などすると共に様々な取り組みについても意見交換を行いサービス向上に努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	管理者は毎月の報告実施、又担当者の方から入居者さまの現状について意見や質問を求められた時は、正確な内容を提供し協力関係を築いています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	市が開催する研修「グループホームの身体拘束・虐待を考える」で研修し職員は身体拘束について理解したうえで抑制や拘束をしないケアに取り組んでいる。共有スペースを活用した見守りなどケアの工夫をしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ホーム内勉強会を実施し理解を深め情報交換を行うことで虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は市の研修会等へ参加し理解を深めて活用できるように備えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約のときはホームの内、外を見て頂いて、契約時書類説明して不安のない様、質問を受け納得を得ている。又ホーム内、外の見学にて安心して頂くように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関先に意見箱を設けている。面会時や事業所の行事参加時に家族からの意見や要望を聞いている。出た意見は申し送りノートやミーティングで報告し全職員で共有している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のミーティングで積極的に意見を求めると共に日頃から連絡ノートや口頭での報告、連絡、相談を密にするように努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者による評価、人事考課、面談にて賞与等へ、努力評価反映している。又資格取得による手当を支給もある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	地区の研修、勉強会への参加提供し、スキルアップを図っている。内容についてはミーティング内発表にて情報共有している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホームの勉強会等で情報交換し交流を持っている。さらに同業者との親睦を深めるため、ミニバレー大会のレクエーションに参加し交流を図った。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居の際に入居前のケアマネージャーさんから情報を得たり、ご本人より入居にあたり不安なこと希望等をお聞きし、新しい環境の中で安心して生活出来る様、寄り添いながら支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時にご家族の思い、要望等を伺い信頼関係を築くようにしています。入居後もコミュニケーションを多く取り、本人が安心して暮らせるように一緒に関われる関係作りに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホーム以外のサービスとして訪問看護を月2回健康管理として対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	女性の入居者の方には、レベルに応じて雑巾縫いや洗濯物畳み、新聞折、調理等を手伝って頂いている。又男性入居者の方には、ゴミ出し 花の水やり等、スタッフと共に作業している。家庭での生活と同じ様に過ごしてもらっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族来訪時には本人様とゆっくり過ごせる時間を提供し日頃の様子や体調などお伝えするように努めている。ご家族と連携を取りながら一緒に本人を支えている。関係作りに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	お友達や馴染みの方の来訪の際はゆっくりお話しが出来るよう環境整備に努めている。又、ご家族様協力のもと墓参りや仏事などに出席して頂いている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う入居者同士が会話をされたり、歌われたり見守り行い、スタッフの一緒に入り楽しい時間を過ごして貰える様に努めている。トラブルが起きそうなときは、みまもりや仲裁で不快な気持ちにならないように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所されてもご通夜や葬儀に出席したり、転院後もお見舞、挨拶に行き、良好な関係を継続している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	欲しいものや必要な物の希望があった時は一緒に買い物に行ったり、スタッフで購入している、ご本人の意向に添えるように努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時はご家族やケアマネから情報を頂いたり、日頃の本人様との会話の中で生活歴等を詳しく把握し、その人らしい暮らし継続が出来るように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の生活ペースを大事にして頂くことを大切にしている。又、日頃から本人の出来ること、出来ない事等を見極め、役割を持って頂く様に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回のミーティングや必要と思われる時は、職員、ホーム長、家族の意向をもとに話し合い現状のニーズに即した介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	状態の変化や気づき等は日々の記録や申し送りノート、ミーティングを活用しケアの統一を図ると共に介護計画のも反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族や本人から要望があれば外出や買い物等柔軟に対応している。又、年3回(2月・6月・10月)の日帰り旅行の行事や花見の外出支援の充実に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	2か月に1回開催している運営推進会議では利用者を代表して1名の方に参加してもらい会議の場で自ら語って頂いている。又、町内のゴミ拾いに参加したり、小学校への手縫いの雑巾を寄与するために作業し力を発揮して頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は個々の希望を大切にしかかりつけ医に受診し適切な医療を受けられるよう支援すると共に毎月委託医にて健康管理を行っている。又家族が受診同行できない場合は職員で対応するようにしている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月2回の訪問看護の際、個々の利用者の様子や体調を報告し、アドバイスを頂いている。又、職場内の看護職に相談し適切なケアが出来るよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関との情報交換にて良い方向に務める共に本人、家族との話し合い、入院による機能低下等見られる場合は早期に以前の生活に戻れるように支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	疾病やターミナルについては方向性を家族と話し合いながら訪問看護、かかりつけ医、家族と連携を図りながら日常生活全般をスタッフで支援している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の連絡先や方法を把握し急変や事故発生時は応急手当てや早期対応を行い、日頃より定期的実践力を身につけるよう訓練を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練で一部は入居者とスタッフでの戸外までの避難を行い、二部は消防士の方の指導でスタッフは消火器の使用体験を受けている。又、スプリンクラーの定期的な点検もして頂いている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの生活歴や性格を把握し利用者 を尊重した声かけや対応するように心掛けて いる。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自 己決定できるように働きかけている	買い物やドライブ等の希望時には一緒に出 掛けている。又、入浴の順番など希望される 方には意向を尊重し支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一 人ひとりのペースを大切に、その日をどのよう に過ごしたいか、希望にそって支援している	居室で過ごされている方や他者とおしゃべり したりTVを見たり、散歩したりと思い思いに 自分のペースで過ごされている。利用者の ペースを大切にその人らしい暮らしの継続 が出来るよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう に支援している	身体を清潔に爪切り、整髪、服装等に心掛 け、必要時化粧水、クリーム等の提供を行っ ている。髪染めを希望される方には支援 行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好み や力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備 や食事、片付けをしている	調理の祭は入居者様と一緒に食材の皮むきや 炒めもの等スタッフと行き、食後は織機拭き台拭 きなど個々の持てる力を発揮して頂いている。食 事形状に工夫を取り入れ誤嚥防止に努め、柔ら かくしたり、トロミを使用したり、美味しく安全に食 べて頂ける様努めている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて 確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に 応じた支援をしている	一人ひとりの食事量や水分量をチェックし体 調や摂取量に合わせて食事形態や量を変 えて食べやすいように提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一 人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケ アをしている	毎食後の口腔ケア、声かけや介助、確認を 行い、夜間は義歯消毒をし口腔内の清潔に 努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を活用することで排泄パターンを把握し、本人の動作、言葉からサインを見逃さないようにトイレ誘導を行っている。トイレでの自力排泄を習慣として円滑に行えるようその人に応じた支援を通しオムツ削減に努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量に気を配り、食物繊維を多く含む野菜を取り入れている。又、牛乳やヨーグルト、適度な運動等で便秘予防に気をつけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご本人の希望やタイミング、又体調や気分に合わせて入浴支援を行っている。時には利用者希望で二人で楽しく入浴が出来るよう支援している。それぞれの拘りを汲み取り個々に合わせた支援を心掛けている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調や年齢を考え、午前もしくは午後には臥床支援を本人の意向に合わせて行っている。過去の病歴などを考慮し、休息の声かけや支援を心掛け、気持ちよく安心して休んで頂けるように努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別に使用している薬の目的や用法についてはスタッフ全員が薬説明書に目を通し把握するようにしている。服薬時は必ず日付と氏名を確認したうえで本人に手渡し、確実に服薬出来るよう見守り支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食器洗い、ゴミ出し、買い物への同行など各利用者様の得意分野を把握し支援を行っている。又散歩や塗り絵などのレクリエーションを取り入れ利用者様同士の関係やスタッフとの関わりを大切に気分転換が出来るように努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩、ドライブ、買い物同行の日常的な外出支援に努めている。又ドライブでは行き先の希望を伺い、ドライブ先のお店での買い物をして頂き、楽しみを持って出掛けられるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が出来る方には小額づつ管理して頂、希望があれば必要な物を自由に買い物できるように支援している。購入の際は職員も購入の品、金銭等の把握の努めている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人自ら電話をされたりは無いが希望があれば取り次いでいる。又、遠方のご家族より定期的に手紙が届く方には返事を書いて頂くようハガキ等を提供している。今年は4名の方がご家族宛てに直筆で年賀状を出された。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には入居者の方が生けられた季節の花が飾られフロアー装飾には写真を提示したり四季に応じて貼り絵、ぬり絵、書道などの作品を展示し季節感を採り入れている。又、快適に過ごして頂けるよう照明は適度な明るさを保ち、冬場は加湿器を使用し温度、湿度に配慮している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	馴染みの方と一緒にTVを見たり、テーブル囲んで新聞折りを手伝ったり、一人でゆっくり過ごされる方へは自室にて休息出来るよう支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご入居の際、慣れ親しんでこられた家具をご家族から用意して頂き、自宅にいるような気持ちで過ごして頂ける様にしている。又、居室には娘様やお孫さまの写真も飾って頂いている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	お風呂やトイレは認識しやすいように明示してある。手すりが必要な所には設置しており、安全に生活できるように配慮してある。居室にも本人様の写真や名前をドアに提示している。		